



教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―祈りを深める

■ 2017年 クリスマスミサのご案内 ■

- 23日 (土・祝日) 14:00 「子どもと家庭のクリスマスミサ」
 18:00 「キャンドルサービスとフォークミサ」
 - 24日 (日) 17:00 ・ 19:00 (手話通訳付き) ・ 21:00
 22:30 (英語ミサ)
- ミサ前に順番にお並びいただく整理はいたしません、安全上入堂を制限する場合があります。
また、安全確認のため、各ミサ終了後、主聖堂から全員ご退堂いただきます。
- 25日 (月) 7:00 ・ 8:30 ・ 10:00 (手話通訳付き) ・ 12:00 (英語)
 13:30 (スペイン語) ・ 18:00

日本で絶えることなく大切にされてきたクリスマスの祝い

クリスマスはご復活とともに教会の中心なお祝いであり、日本のキリシタン時代から大切にされてきました。記録がないものの、ザビエルが来日した1549年の12月にもクリスマス祝ったに違いありません。2年後の1551年記録によると、トルレス神父が山口でクリスマス祝った際、数十名の人々が熱心にミサに与ったとあります。

イエス・キリストによる救いを宣教するカトリック教会では、その救い主の降誕祭は欠かせないものです。

当時の幾つかの記録を紹介します。1567年に堺にいたフロイス神父は、盛大にクリスマス祝いました。聖堂は狭すぎたので、広間を借りて、きれいな装飾をつけ、夜中のミサと宴会をひらきました。その頃、堺の近くに二つの軍隊の陣がありましたが、敵味方を問わず、双方からキリシタンの武士が七十人ほどその祝いに参加したとあります。このように、クリスマスは平和、和解をもたらす祝いであることが具体的に見えていました。ルイス・デ・アルメイダ修道士は、1568年12月に大村では新築されたばかりの教会で最初のクリスマスが盛大に祝われたと報告しています。

徳川幕府の迫害が激しくなる1611年12月に、有名なキリシタン婦人、細川ガラシャの息子である忠利は、小倉にいた伊東マンショ神父を迎え、中津でのクリスマスの祝いを許可しました。

更に、神父も公に信仰を伝える人も日本から消えたかと思われた200年あまりの間にも、かくれキリシタンが「お太夜」、つまりクリスマス・イヴを祝い続けま

した。高齢化によって最近では祝うかくれのグループが少なくなりましたが、長崎市家野町のかくれキリシタン、杉本ツジ(当時85才)さんは昭和42年ごろに次のような証言を残しています。

『ご誕生の前日は牛小屋を隅々までよく清掃し、敷きワラも新しいものと取りかえてたくさん敷いてやります。飼料もいつもよりよいものをうんと食べさせました。牛の飼い葉桶には、ゼズスさまの初湯にと、きれいなお湯をなみなみ入れておくので、子供たちにはそれでお湯をつかわせたものです。ゼズスさまがベレンの洞穴で生まれなされたとき、そこに飼ってあった牛はその吐息でゼズスさまを暖めてくれたが、馬は何もしなかったので、ご誕生の祝日には牛にはよくしてやりますが馬には何もしてやりません』(片岡弥吉ほか著『近世の地下信仰』101頁より)

上述の通り、教会が発展しようとも迫害されようとも、日本の教会はクリスマスはどこでも祝い続けてきました。やはり、クリスマスには日本人の心に訴える何かがあります。たとえ商業的な活動であったとしても、どこでも祝われています。

信仰における先輩がたのことを思うならば、私たちにはその「救い主なしの祝い方」に救い主の姿が見えるような祝い方を伝えていく使命があるように思います。

イエズス会日本管区管区長 レンゾ・デ・ルカ

クリスマス前のゆるしの秘跡のお知らせ

(変更の可能性があるので、詳しくは聖堂掲示板でご確認ください)

12月9日(土)・16日(土)・23日(土)
時間 : 14:00 ~ 15:00
時間 : 17:30 ~ 18:30
場所 : 主聖堂の左右の告解室

12月10日(日)・17日(日)・24日(日)
時間 : 8:30 9:30 12:00
13:00 17:30
場所 : 主聖堂の左右の告解室
★13:00は1箇所のみ
★24日の17:30はありません

12月11日(月)から22日(金)の週日
時間 : 17:30 ~ 18:30
場所 : 主聖堂の左右の告解室
★水曜日は1箇所のみ

12月25日以降は、2週間ゆるしの秘跡はありません。

12月の共同祈願

待降節の間、私たちが心と体を整え、キリストの誕生を迎えることができるよう導いてください。
私たちが真の救いを待ち望む中で、
新たな希望の光を灯してくださいますように。

朝の祈りにおいて：恵みを願って一日を始めよう

自分が待ち望んでいるものを願いましょう。
今日1日必要な願いととも、
今日明日かなうものではないけれど、
いつか実現したい望みも祈り求めていますように。

晩の祈りにおいて：今日一日をふりかえってみよう

今日1日、どういう恵みがあつたでしょうか。
主が私に与えてくださった希望のしるしは何だったでしょうか。
それをふりかえってみましょう。

「ミッション 2030」 — 祈りを深める⑦

～誰かのために祈る～

私は保健師として働いていますが、たまたま同僚のピンチヒッターで関わりをもった、男性患者さんの妻：Cさん(50代)との関わりを書いてみようと思います。Cさんからも「書いていいですよ」と背中を押して頂きました。

Cさんは、夫の物忘れや徘徊、意味不明の言動や暴力に悩んでいましたが、若年性の認知症とは思ってもみず、誰にも相談できないまま、4年間ひとりで介護をしていたそうです。ようやく最後の手段と思って電話をかけてきたのが、保健センターでした。

訪問して様子をみた結果、精神科入院が必要と判断し、入院の運びとなりましたが、診断は重度の若年性アルツハイマーでした。2ヶ月の入院の後、病院から「一旦は自宅に戻り、サービスを受けながら生活してみよう」と提案があり、Cさんは夫との在宅生活に不安を抱えながらもその気持ちを話せず、退院直前に9階から飛び降りてしまいました。私あての遺書もあり「大変お世話になりました・・・私が私でいられることは、もうないように思います」と書かれており、私自身、申し訳ない気持ちで一杯になりました。

一報が入った夜、集中治療室へ行き、人工呼吸器をつけているCさんを前に、自分は祈る言葉すら持ち合わせてないのだ、ということに気づき、ただ手を握って聖歌を歌いながら傍にいました。時々、Cさんが手を握り返してくるその感触が、この世に存在してくれているしるしでした。当時、私の話を聞いた神父様やシスター、知人たちが、Cさんの快復と、生きる勇気が湧いてくるようにと祈り続けてくださいました。

数ヶ月の治療後、新たな生活を始めることになったCさんが「誰かが自分のために祈ってくれるなんて、今まで思ってもみなかった。会ったこともないけど、是非皆さんにお礼を伝えてね」とおっしゃいました。誰かが自分のために祈ってくれていることを信じられること、感じられることは大きな恵みだと思います。同時に、祈りとは一方向的なものではなく、私自身が、Cさんへの祈りを通して、慰められ救われたと感じます。Cさんは「先のことを考えると頭が真っ白になるけど、でも自分が生かされている意味を考え続けている」と話して下さいます。喪ったものによって、更に生かされていくCさんの姿に触れ、私自身もこの生かされている命に感謝し、祈りの関係性のうちに生きていきたいです。

佐藤和央



JOYFUL ASIAN YOUTH!
LIVING THE GOSPEL IN MULTICULTURAL ASIA

アジアニューズデーは、始めから終わりまで喜びの連続でした。そこに集えた喜び、出会えた喜び、言葉の壁を超えて語り合う喜び、各々が持つ異なる文化に触れる喜び。それらの全ての喜びの源となるものに信仰の喜びがありました。私たちは神様に呼ばれてここに来て、今やっと出会うことができたのだと思いました。私の信仰の歩みはまだ始まったばかりです。もっと多くの人に出会って、同じ喜びを感じ、分かち合わなければいけないと思います。私は、信仰の喜びを持って神様の愛を伝えるためにどんな生き方ができるのか、考え続ける人になりたいです。私は、日曜学校でリーダーをしています。日曜学校に来ている子どもたちは、イグナチオ教会にとっても、カトリック教会全体にとってもかけがえのない宝物だと思います。私は、その宝物である子どもたちに、アジアニューズデーで感じた喜びや恵みを伝えていきたいです。そして、彼らがこれから開かれるアジアニュー



外でみんなで食べるごはんはいつもの何倍も美味しかったです!!!

ズデーやワールドユースデーに参加して、さらに多くの恵みを受けるきっかけになることができればいいです。

マリア テレジア 池松静麗
(現日曜学校リーダー)

アジアニューズデーは私の人生に起きた最も特別な出来事でした。私はカトリック信者として生まれ、これまで信仰を強める多くの事を経験しましたが、このAYDはずっと参加したいと思っていたイベントの一つでした。

私にとってAYDは、誰もが笑顔で幸せである神の国にいるかのような体験でした。私たちは文化の違いを越えて友達になり、異なる言語で話していても喜びを通し



違いを越えて、神様が与えてくださった恵みの中で一つに結ばれた友情

てお互いを理解し合いました。私たちは一緒に歌い、踊り、泣き、笑い、祈りました。同じ信仰を持つ2千もの若者と共に時間を過ごせたことは本当に素晴らしいことでした。

AYDでムスリムの兄弟姉妹と一緒に時間を過ごす機会を得ました。私たちは同じ信仰を共有しています。宗教は違いますが、同じ神のうちにあることを分かち合いました。また自然に触れる機会があり、自然がいかに大切であるか気がきました。

私はAYDで体験したすべての活動、出会ったすべての人のうちに主の愛を感じました。これらの体験は私の心を潤し、私の心に火をつけました。この炎を若者たち、世界の人々と分かち合っていきたいです。私は、インドネシアで行われたAYD7で得たこの喜びを伝えるために全力を尽くします。

AYD spirit lives on(AYD魂が生き続ける)!

Kyouhei KOBAYASHI
(インターナショナル青年会、英語ミサ先唱、聖書朗読)

年末年始の教会事務局

12月26日(火)～1月3日(水)まで、
通常業務はお休みです。証明書などの
発行依頼は、お早めにお申し出ください。

☆

信徒会館は12月26日(火)～1月5日(金)まで
19時閉館となります。

事務局休業日

2018年1月2日(火)・1月3日(水)

☆

クリプタについて

クリプタ申し込み、納骨に関する業務は
12月18日(月)～1月6日(土)まで、
お休みです。なお、お参りは平常通りできます。

20歳のお祝いを成人式ミサで

2018年 1月 7日(日) 18:00
ミサ後、ヨセフホールで祝賀会が開かれます。

新成人の方ならどなたでも歓迎します。
受付 : 当日の17:00～17:30

11月の宣教司牧評議会より

- ・10月8日(日)、15日(日)に行ったメキシコ大地震復興支援募金で集まった987,563円を「御聖体の宣教クララ修道会」へ献金しました。
- ・2018年度信徒評議員候補者の推薦を2017年12月2日(土)～2018年1月7日(日)まで受付ます。詳細は推薦用紙でご確認ください。

財務報告

10月22日(日)の「世界宣教の日」のための献金
717,488円は、ローマ教皇庁に送られ、世界中の
宣教地に援助金として届けられます。

クリスマス・年末年始の案内所

- 12月24日(日) 9:30～22:30
- 12月25日(月) 9:30～19:00
- 12月26日(火) お休み

年末年始のお休み
12月28日(木)～1月4日(木)

新年祝賀会

日時 : 2018年 1月 7日(日)
11:15～ 日本語
13:15～ 英語
14:45～ スペイン語

場所 : ヨセフホール

言語別に開催いたしますが、どなたでも
ご自由にご参加いただけます。

11月12日(日) 七五三祝福式



神父様から祝福を受け、記念品をいただきました。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00/12:00/18:00 (Japanese)
(土曜日 18:00 は主日ミサ)

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

7:00/8:30/10:00/18:00

(Japanese)

12:00 (English) / 13:30 (Español)

Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)

Mary Chapel 12:30 (Português)

16:00 (Polish)

主任司祭: 佐々木良晴

助任司祭: 英 隆一郎

(アルファベット順) ギュンタ・ケルクマン

田丸 篤

協力司祭: 平林冬樹

ヘネロン・フローレス

ハビエル・ガラルダ

シスター: イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

アヴェリーノ・アウレア・ビスナー

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス : <http://www.ignatius.gr.jp>